

大会名 Competition	第30回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-119	Year Month Day Time 2017 年 5 月 6 日 12 : 10
場 所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会  
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB										
能代工業	<table border="1"> <tr><td>14 1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>15 2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>18 3rd</td><td>21</td></tr> <tr><td>20 4th</td><td>21</td></tr> <tr><td colspan="2">E P</td></tr> </table>	14 1st	19	15 2nd	16	18 3rd	21	20 4th	21	E P		開志国際
14 1st	19											
15 2nd	16											
18 3rd	21											
20 4th	21											
E P												
67 ●		77 ○										

主審:Referee  
吉橋雅一 愛知  
副審:Umpire  
岩城和利 宮城  
疋田 晋 秋田  
テーブルオフィシャル:Table officials  
大館鳳鳴高男子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	児玉 凜斗	CAP	11	1	3	2	2	4		伊藤 領		-	-	-	-	0
5	×	児玉 海渡		14	0	6	2	5	5	／	中山 星磨		0	0	0	0	1
6	×	新田 由直		10	0	5	0	2	6		高嶋 淳次		-	-	-	-	0
7	×	石田 淳		1	0	0	1	2	7	×	山口 蓮	CAP	0	0	0	0	1
8	×	守屋 壮次郎		3	1	0	0	0	8		四竈 純		-	-	-	-	0
9	／	齋藤 創		18	4	2	2	5	9		津田 優弥		-	-	-	-	0
10	／	牧野 湧		10	0	5	0	3	10	／	中澤 嶺		0	0	0	0	3
11	／	佐藤 侃		0	0	0	0	0	11	×	小栗 瑛哉		6	2	0	0	2
12		高橋 日向		-	-	-	-	0	12	×	清水 瑠衣		6	2	0	0	0
13	／	伊東 翼		0	0	0	0	1	13	×	和田 蓮太郎		17	2	3	5	0
14		秋元 淳之介		-	-	-	-	0	14	×	JOOF YUSUF		46	0	19	8	0
15		栗屋 颯太		-	-	-	-	0	15	／	BABACARR. S NYASSI		2	0	1	0	1
16		阿久津 穰		-	-	-	-	0	16	／	高木 拓海		0	0	0	0	0
17		遠田 貴大		-	-	-	-	0	17	／	吉川 瑠		0	0	0	0	0
18		須藤 陸		-	-	-	-	0	18	／	相馬 迅		0	0	0	0	0
コーチ		柴田 直宏						0	コーチ		富樫 英樹						0
アコーチ		杉沢 政						0	アコーチ		津野 祐樹						0
合 計				67	6	21	7	20	合 計				77	6	23	13	8

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

#### Score ranking [Team]

1	18	26.87%	齋藤 創	1	46	59.74%	JOOF YUSUF
2	14	20.90%	児玉 海渡	2	17	22.08%	和田 蓮太郎
3	11	16.42%	児玉 凜斗	3	6	7.79%	小栗 瑛哉

#### Score ranking [Game]

1	46	JOOF YUSUF	開志国際	2	18	齋藤 創	能代工業	3	17	和田 蓮太郎	開志国際
---	----	------------	------	---	----	------	------	---	----	--------	------

1Q、ゲーム開始から開志国際#14YUSUFの3連続ゴール。それに対して、能代工#5児玉(海)、#6新田がミドルシュートを試みるが中々決まらない。それに対し、開志国際#14YUSUFはダンクシュートを含む12得点を挙げリード。能代工は残り5分でタイアウトをとると、その後ディフェンスのカバーリングが機能しはじめる。#5児玉(海)、#6新田のミドルシュートが入りだし、5点差まで詰めたところで1Q終了。

2Q、メンバーチェンジで入った能代工#10牧野のミドルシュートで反撃。その後も一進一退の攻防が続く。残り3分で27-29と能代工が1ゴール差まで挽回したが、その後、開志国際#13和田、#12清水の連続3Pで前半を34-29で終える。

3Q、開志国際は#14YUSUFを中心にゴール下を攻めるが、うまくパスが通らない。一方能代工は#9齋藤が2本の3Pを決めるなどして、43-41の1ゴール差まで詰め寄るが、開志国際#13和田や#14YUSUFのゴール下のシュートが機能しはじめると差が開き、56-47の開志国際リードで3Q終了。

4Q、は能代工#9齋藤の3Pや#4児玉(凜)のジャンプシュートで反撃。開志国際も#11小栗の3Pや#14YUSUFのゴール下で応戦。それに対し能代工も#5児玉(海)のドリブルインや#8守屋の3Pで、残り3分28秒で同点。その後、開志国際は#14YUSUFを機能させた攻めや、リバウンドによるゴール下のシュートでリードを保ち、67-77で試合終了。

開志国際の高さを生かした素晴らしい攻撃力と、チームディフェンスとスピードで伝統復活を感じさせた能代工との見ごたえのある好ゲームだった。